



福井県立大学大学院

CAMPUS GUIDE 2027

看護福祉学研究科

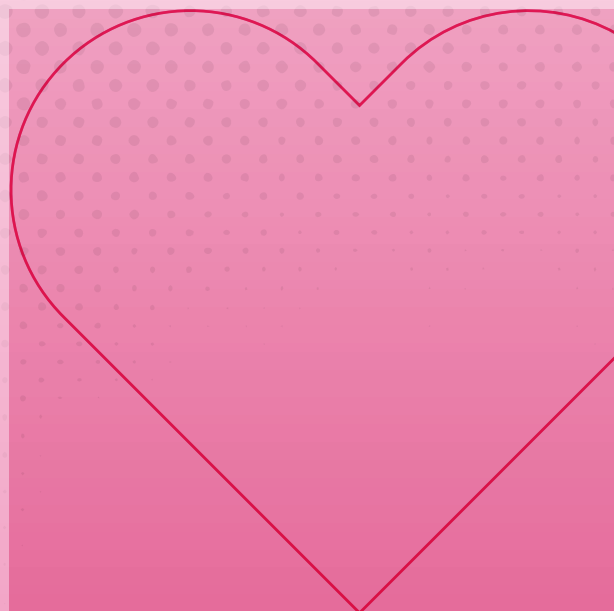
看護学専攻／社会福祉学専攻（修士課程）

Graduate School of Nursing and Social Welfare Sciences

健康生活科学研究科

健康生活科学専攻（博士後期課程）

Graduate School of Health and Human Life Sciences



看護学専攻

Major in Nursing Science

詳細は
ホームページへ



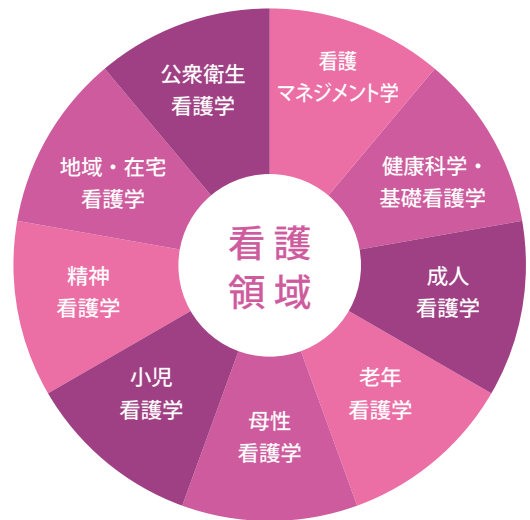
質の高い包括的なケアを目指して

- 1 看護学専攻は看護マネジメント学、健康科学・基礎看護学、成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、地域・在宅看護学、公衆衛生看護学の9領域を設けています。
- 2 看護マネジメント学領域は日本看護協会の認定看護管理者審査要件を満たしています。
- 3 養護教諭一種免許状を有している人は、「養護教諭専修免許状」を取得できます。

取得できる学位 ▶ 修士（看護学）

■教育目標

- ▶ 環境の変化に伴い多様化するヘルスケアニーズに応じて発展的・創造的に看護を実践する能力を養成する。
- ▶ 人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づく質の高い看護を提供する能力を養成する。
- ▶ 看護学発展の長期的展望に立ち、看護実践上の問題や課題の解決に向けた研究能力を養成する。
- ▶ 保健・医療・福祉分野の専門職や他職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を養成する。
- ▶ ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を養成する。



■カリキュラム

▷ 共通科目

精神健康学特論
環境保健学特論

看護・福祉研究方法論
コミュニケーション特論

▷ 看護学専攻共通科目

看護理論
看護教育論

看護政策論
看護倫理学

看護管理論

▷ 専攻科目

看護マネジメント学 看護マネジメント学特論 看護マネジメント学演習 看護マネジメント学特別研究	成人看護学 成人看護学特論 成人看護学演習 成人看護学特別研究	母性看護学 母性看護学特論 母性看護学演習 母性看護学特別研究	精神看護学 精神看護学特論 精神看護学演習 精神看護学特別研究	公衆衛生看護学 公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護学特別研究
健康科学・基礎看護学 基礎看護学特論 基礎看護学演習 基礎看護学特別研究	老年看護学 老年看護学特論 老年看護学演習 老年看護学特別研究	小児看護学 小児看護学特論 小児看護学演習 小児看護学特別研究	地域・在宅看護学 地域・在宅看護学特論 地域・在宅看護学演習 地域・在宅看護学特別研究	その他 成人・老年保健学特論 成人・老年保健学演習 養護概説特論 養護概説演習

▷ 経済・経営学研究科の授業科目

経済理論
日本経済史特論

ワークショップ(地方行政論)
現代企業論

人的資源管理特論

※ 2027年度カリキュラムは変更となる場合があります。

受験を検討されている方への
お願い

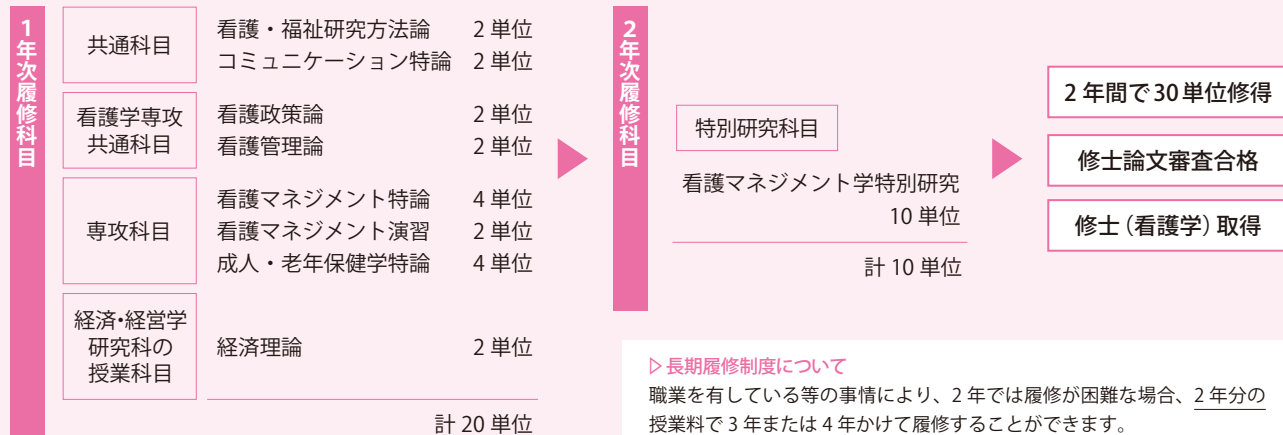
出願にあたっては、事前に担当事務へメールでご連絡ください。

▶ ✉ kyoiku-n@g.fpu.ac.jp

研究計画等について、担当教員との事前面談をさせていただきます。

看護学専攻の履修モデル

※看護マネジメント学領域を選択した場合



▷長期履修制度について

職業を有している等の事情により、2年では履修が困難な場合、2年分の授業料で3年または4年かけて履修することができます。

修士論文タイトル（2020年度～2025年度）

- 慢性心不全患者のアドバンス・ケア・プランニングの実践状況と関連要因
- 中山間地域に住む独居高齢者を支える別居家族が抱える課題と支援に関する研究
- マウスにおけるタウリンの腸内細菌と胆汁酸代謝を介した全身作用
- 精神科救急病棟における統合失調症と糖尿病を合併する高齢者への糖尿病管理に向けた支援の実態と看護師の糖尿病療養指導スキルに関連する要因
- 看護師長のサーバント・リーダーシップとリスク感性との関連
- 若手看護師の心理的安全性と組織コミットメントとの関連
- 急性期病棟で働く看護師の難聴高齢者へのケアにおける困難と工夫
- 看護師長のレジリエンスとコミュニケーションスキルとの関連
- 看護師経験を有する地域包括支援センターの看護職が行う一人暮らしの慢性心不全をもつ認知症高齢者への支援
- コロナ禍に入職した新人看護師のストレス対処力とリアリティショックとの関連
- 中堅看護師が副看護師長という新たな役割に向かう心理的プロセス
- 在宅血液透析介助者のストレス認知的評価とストレス反応
- 医療的ケアの手技獲得後に看護介入を受けて生じた母親の認識

看護学専攻 研究紹介



岩谷 久美子 教授

安全管理や看護師・助産師学生教育に関する研究

私は、母性看護学・助産学の教育施設や周産期にかかわる医療施設の方々にご協力をいただき、母性看護学・助産学教育に関する研究や看護管理としての安全管理に関する研究、子育て支援に関する研究等に取り組んでいます。

今までの研究により、助産学分野のインシデント・アクシデント特性や起こりやすいリスク事象が明らかになり、分娩期に起こりやすいリスクな仮想環境下を作成しリアルに体験できる教材として、危険認知や行動を評価できる教材（VR教材）を開発し、実際に活用性を評価しました。さらに現在はVR教材を進化させ、育児支援としてモーションキャプチャーを取り入れ、リアルにその状態を体験でき、必要な看護を実践し思考過程を振り返ることができるような双方向性に対応できる教材となるよう開発しているところです。

他方、地震や豪雨・洪水などの災害が起こっている現状から、災害時の影響・問題点や対策等の研究を進めています。

看護学専攻 在学生インタビュー



朝井 麻央 さん

大学院進学を決めた理由は、臨床で看護師として働く中で直面してきた課題を、経験だけでなく理論や研究の視点から深く探究したいと考えたからです。現在は、看護師の多重課題遂行能力と職務満足度の関連をテーマに、臨床実践の中で生じた疑問をもとに研究に取り組んでいます。研究を通して、看護実践を個人の努力に委ねるのではなく、組織や業務体制といった看護管理の視点から、エビデンスに基づいて捉え直す重要性を実感しています。中学生と小学生の子どもを育てながら仕事と学業を両立する日々は容易ではありませんが、Zoomによる講義聴講が可能な学修環境により、限られた時間の中でも学びを継続できています。また、職場の理解や家族の協力があってこそ進学と両立できていると実感しており、支えてくれる周囲への感謝を大切にしています。臨床の経験を研究につなげたい方や、仕事や子育てをしながら学びたい方にとって、挑戦への一歩を後押ししてくれる大学院だと思います。

社会福祉学専攻

Major in Social Welfare Science

詳細は
ホームページへ



尊厳ある生のために

- 1 社会福祉学専攻は、北陸で最初に開設された福祉系大学院です。
- 2 毎年行われる研究報告ワークショップや中間発表会で研究のブラッシュアップを図ります。
- 3 修了生は、福祉・保健・医療・教育・司法・労働等の多方面の分野で全国的に活躍しています。

取得できる学位 ▶ 修士（社会福祉学）

■教育目標

- ▶ 個人と社会のウェルビーイングを高めるための社会福祉実践・社会福祉政策の価値を探究する能力を養成する。
- ▶ 自由・平等・友愛の民主主義思想と共生の理念に基づいた研究能力を養成する。
- ▶ 複雑・複合化した生活課題の解決のための多角的視点での社会福祉学研究を行う能力を養成する。
- ▶ 個々人の生活の質の向上と社会の健全な発展に寄与する研究能力を養成する。
- ▶ 多様で複雑化した個別ニーズに対応できる実践能力を養成する。
- ▶ 地域における共生社会の発展に資する実践能力を養成する。



■カリキュラム

▷ 共通科目

精神健康学特論	看護・福祉研究方法論
環境保健学特論	コミュニケーション特論

▷ 専攻科目

社会福祉学特論	社会福祉援助特論 (集団)	精神保健学特論	権利擁護特論	福祉教育特論
社会福祉学演習	社会福祉援助演習 (集団)	精神保健学演習	権利擁護演習	修士論文指導
社会政策特論	社会福祉援助特論 (地域)	児童・家庭福祉特論	国際福祉特論	
社会政策演習	社会福祉援助演習 (地域)	児童・家庭福祉演習	国際福祉演習	
社会保障特論	社会調査特論	高齢者福祉特論	医療人類学特論	
社会保障演習	社会調査演習	高齢者福祉演習	医療人類学演習	
社会福祉援助特論 (個別)	精神保健福祉特論	障害者福祉特論	社会福祉管理・経営特論	
社会福祉援助演習 (個別)	精神保健福祉演習	障害者福祉演習	学校ソーシャルワーク特論	

▷ 経済・経営学研究科の授業科目

経済理論	ワークショップ (地方行政論)	人的資源管理特論
日本経済史特論	現代企業論	

※ 2027年度カリキュラムは変更となる場合があります。

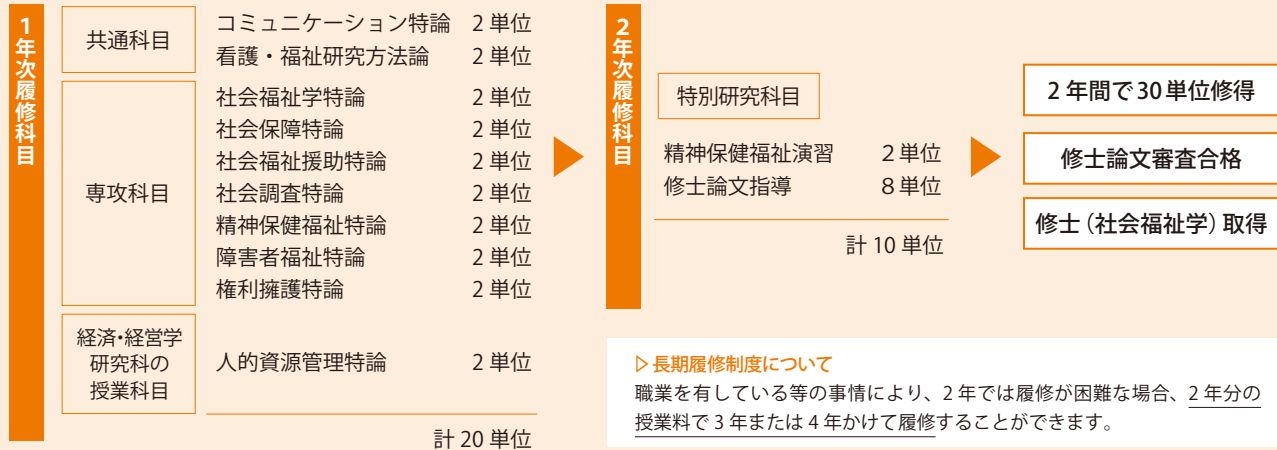
受験を検討されている方へ
のお願い

出願にあたっては、事前に担当事務へメールでご連絡ください。

▶ ✉ kyoiku-n@g.fpu.ac.jp

研究計画等について、担当教員との事前面談をさせていただきます。

社会福祉学専攻の履修モデル ※精神保健福祉を選択した場合



▶長期履修制度について

職業を有している等の事情により、2年では履修が困難な場合、2年分の授業料で3年または4年かけて履修することができます。

修士論文タイトル (2020年度～2025年度)

- 地区の福祉委員会活動と民生委員の継続性に関する質的研究～あわら市民生委員へのインタビューによる意識調査から考察する～
- 成年後見制度における意思決定支援と事実行為との関係性の考察～専門職成年後見人等の実践をふまえて～
- 身寄りのない方、身元保証のない方、経済的問題を抱えている方へのかかりについて～医療ソーシャルワーカー、生活相談員への意識調査からの考察～
- グループホームが「住まい」の場となるために～入居する精神障害者の実感からの考察～
- Caring for Patients' Lives: A Garden-Based Community Practice by Primary Care Providers
- 地域の基盤形成に向けた一考察～豊かな生活を実現するために～
- 健康行動をおこしにくい障害者の健康支援に関する研究～相談支援専門員の実践を通して～
- 当事者の視点から見る相談支援事業の役割と体制の研究

- 支援会議の効果的な運用に関する一考察～多職種連携・協働による「よりよい支援」を提供するために～
- 介護保険制度に対する当事者参画に関する一考察～認知症の人と家族の会の提言・要望を通して～
- 知的障害者がグループホームから一人暮らし等に移行するまでの意思決定支援のあり方に関する研究
- スクールソーシャルワーカーの有機的連携に関する一考察～学校内居場所カフェの現状と課題～
- 社会福祉協議会における発展・強化計画策定プロセスへの参画の効果と課題の一考察
- ハンセン病者へのキリスト教伝道一療養所教会の成り立ちと長島聖書学舎を中心に～
- 保育所において医療的ケア児に保育を提供するためのプロセスに関する研究
- 不妊夫婦の家族形成～産婦人科医の取組む「新生児特別養子縁組」を中心として～

社会福祉学専攻

研究紹介



永井 裕子 准教授

住民の主体形成研究と地域づくり実践の往復

私の研究の出発点は、中山間地域における高齢者の生活支援です。フィールドワークを通して、特にアクセシビリティ確保の重要性を実感し、コミュニティバスの協働運行に関する研究に取り組みました。

この経験をふまえ、これまで「地域づくりにはどのような人材・場・ネットワークが必要か」という問いを軸に、ボランティア活動や、地域共生社会の実現に向けた社会関係資本の構築に関する共同研究を進めてきました。

近年はこども食堂を研究フィールドとして、住民の主体形成に関する研究にも取り組んでいます。具体的には、参加者・主催者・ボランティア等が、こども食堂への参加を通してどのように変容していくのかを明らかにすることで、住民、とりわけこどもの主体形成研究と地域づくり実践に寄与したいと考えています。

加えて、地域のなかで多様な人々が「まざる」場づくりの実践にも関わりながら、理論と実践の往還を志向しています。

社会福祉学専攻

在学生インタビュー



西田 ひとみ さん

介護支援専門員 (主任介護支援専門員)

私は介護支援専門員として働きながら学んでいます。大学卒業後にMSWや支援相談員など約20年相談援助職として勤務し、自分なりに研鑽を積んできましたが令和6年能登半島地震で被災し専門職としてのあるべき姿を問う機会となりました。そこで知人の紹介で隣県であり、必要な時にも通学ができる福井県立大学大学院へ進学しました。実践の現場を経験してから、理論や文献と向き合うことは想像以上に有意義な時間となっています。「介護支援専門員が多機関と繋がり合うことで、利用者さんが地域で暮らし続けられる仕組みづくり」を研究のテーマとしています。

仕事や家庭との両立は大変ですが、職場の先輩や家族も応援してくれています。先生方からは励ましの言葉をかけてもらい、講義では研究内容に対する鋭いコメントをいただくことで、モチベーションがアップしています。また、長期履修制度を利用しており、授業料も研究も4年間かけて修了予定となっていることが安心感につながっています。地域の生活課題の解決につながる研究活動をひたむきに頑張りたいと思っています。ぜひ、一緒に学びを深めませんか。

健康生活科学専攻

Major in Health and Human Life Sciences

詳細は
ホームページへ



設置の趣旨

社会の多様化、人口減少、超少子高齢化において、人々は様々な健康上の課題や生活上の課題に直面し、個人・世帯レベルから家族・自治体、国・都道府県レベルまでの対策が求められています。本研究科は、看護学と社会福祉学が融合し、健康から生活までの課題に対して領域横断的に「健康生活科学」研究を行い、「ウェル・ビーイング（健康と幸福）に向けた共生社会」を目指すために設置されました。

健康生活科学研究科で養成する人材

- ▶健康から生活までの多様な課題を包括的に探究できる自律的・国際的な研究者
- ▶基盤となる専門的知識・技術と高い見識を兼ね備え、地域にも貢献できる大学教員や行政担当者

取得できる学位 ▶ 博士（健康生活科学）

■カリキュラム

▷ 共通科目

健康生活科学特論 研究倫理特論

▷ 専攻科目

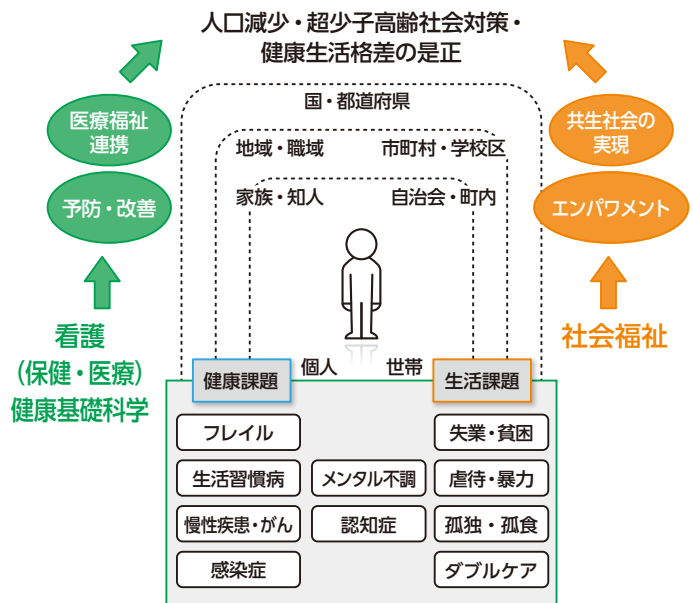
健康基礎科学領域	健康生活探究領域
健康科学特論	健康福祉学特論
看護実践開発演習	保健医療福祉演習
健康バイオマーカー演習	地域包括ケア演習

▷ 特別研究科目（博士論文指導）

健康基礎科学特別研究 健康生活探究特別研究

※ 2027年度カリキュラムは変更となる場合があります。

社会全体の Well-being (健康と幸福) の向上



学位別 階層イメージ

学位	研究科	専攻
博士	健康生活科学研究科 (3年) [博士後期課程]	健康生活科学専攻
修士	看護福祉学研究科 (2年) [修士課程]	看護学専攻 社会福祉学専攻

健康生活科学研究科 特別講義



医療人類学

- ・ Anticipation in Health and Illness
- ・ Emancipatory Disability Research in Brazil: A Legacy from Participatory Anthropology and Disability Studies



倫理・安全

- ・ 臨床倫理について
- ・ 遺伝倫理について
- ・ 誰のための医療安全か—心理的安全性のある職場



知的財産とデータサイエンス

- ・ 研究者として知っておきたい知的財産の基礎知識
- 看護学・社会福祉学分野の現状
- ・ 「地域健康学」の目指すもの—地域保健とデータサイエンス



看護理論

- ・ 状況特定理論

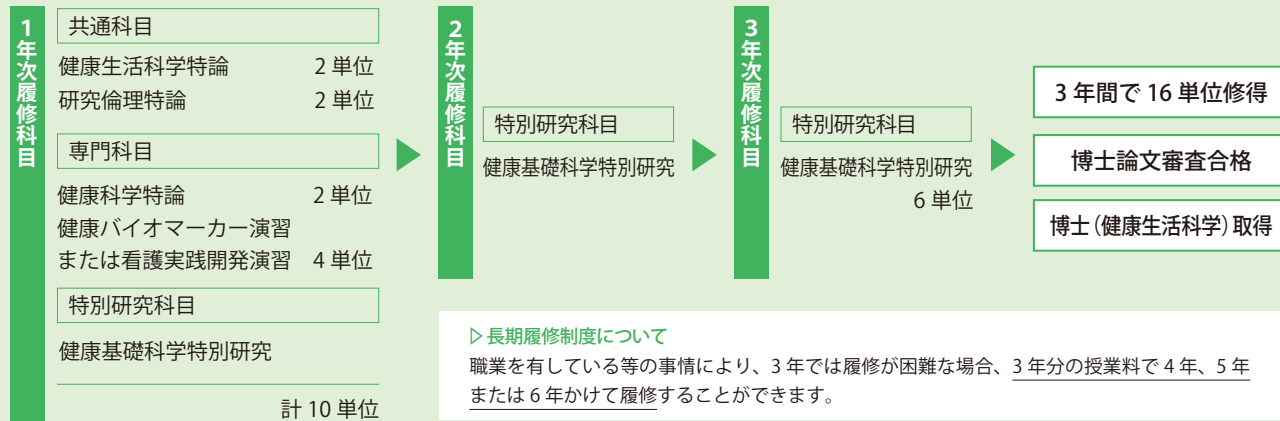
受験を検討されている方へ
のお願い

出願にあたっては、事前に担当事務へメールでご連絡ください。

▶ ✉ kyoiku-n@g.fpu.ac.jp

研究計画等について、担当教員との事前面談をさせていただきます。

健康生活科学専攻の履修モデル



博士論文タイトル (2025年度)

- 知的障害とASDをもつ思春期児の性一養育経験の質的研究
- 統合失調症患者における精神症状とバイオマーカーの関連性の探索的研究
- 超重症心身障がい者のケアにおける医療と生活が並行するケア—看護職と福祉職の協働構造の要因・実践・概念的検討
- 虚血性心疾患患者の睡眠と身体活動の関連—客観的・主観的指標による評価—



第1期生4名が修了

健康生活科学専攻

研究紹介



大島 千佳 教授

生活行動を科学する —睡眠・腸内環境と 看護ケア

睡眠は健康を支える基盤的な生活行動であり、近年は腸内環境との関連を含め、生体リズム全体として捉える必要性が高まっています。私の研究は、看護学の立場から、睡眠および腸内環境を客観的指標により評価し、看護技術の科学的根拠を明らかにすることを目的としています。健康生活科学研究科の第一期生である森脇佳美さんとは、循環器疾患患者の睡眠に関する研究を取りまとめ、疾病を抱えながら生活する人々の実態に即した課題を明らかにしました。博士課程では、臨床や地域に根ざした疑問を研究課題へと昇華させ、得られた知見を看護介入へと発展させることのできる研究者の育成を目指します。実践と研究を往還しながら、看護の質向上を目指す研究に、皆様とともに取り組めることを願っています。

健康生活科学専攻

修了生インタビュー



森脇 佳美 さん

大学教員
名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻

これまで大学院への進学を考えていましたが、仕事と研究を両立できるか不安があり、なかなか一歩を踏み出せずにいました。そのような中で、働きながら研究・進学に取り組める柔軟な学習環境が整っている福井県立大学大学院を知り、博士課程への進学を決めました。進学にあたっては、これまでのご縁の中で関わりのあった先生が指導教員となり、研究について一つ一つ丁寧に助言をいただける環境で学べることも大きな後押しになりました。

名古屋で働きながらの進学であったため、距離の面で迷いもありましたが、遠隔での講義やゼミに対応していただけたことで、場所にとらわれず研究に集中することができました。在学中は、虚血性心疾患患者を対象とした前向き研究に取り組みました。仕事と研究を同時に進める中で困難なこともありましたが、社会人に配慮した大学院の体制があったからこそ、最後まで研究に向き合うことができたと感じております。福井県立大学大学院を選んでよかったと、今振り返って思っています。

研究科長からのメッセージ

看護・福祉の未来を拓く学びの場

「看護福祉学研究科(修士課程)」は、看護学専攻と社会福祉学専攻を有し、高度専門職や教育者のリーダー育成を目指しています。専門分野を越えて学べる柔軟なカリキュラムを採用し、VR(バーチャルリアリティ)などのDX技術や他分野との融合研究も推進しています。

「健康生活科学研究科(博士後期課程)」は2023年4月に開設され、看護学と社会福祉学を統合した「健康生活科学」という新たな学問領域を探索しています。福井県内で初の看護系博士後期課程であり、「Well-being(健康と幸福)に向けた共生社会」をテーマに研究と研究者育成を進めています。多様な専門分野の教員がそろい、国際的な研究も展開しています。両研究科とも、Web遠隔授業・研究指導を導入し、社会人でも学びやすい環境を整えています。ぜひ一緒に学び、研究を深めましょう。



看護福祉学研究科長
健康生活科学研究科長

笠井 恭子 博士(看護学)

Q 毎日通学する必要はありますか？

A 履修する科目にもよりますが、毎日授業があるわけではありません。また、Zoom等を使った遠隔授業も積極的に進めていますので、通学の負担を少なくすることができます。

Q 長期履修制度のメリットを教えてください。

A 修士課程なら2年分の学費で3、4年かけて、博士後期課程なら3年分の学費で4、5、6年かけて履修することができます。学費の負担を抑えて、長期間にわたって学べるのがメリットです。詳しくは教育推進課へお問い合わせください。

Q 出願書類の「研究計画書」の書き方が分かりません。

A 各専攻とも出願前に、研究計画等について担当教員との事前面談を受けていただきます。事前面談のお申し込みは、担当事務へメールでご連絡ください。
✉ kyoiku-n@g.fpu.ac.jp

Q 入学前に単位を取ることは可能でしょうか。

A 本学には「科目等履修生制度」があり、この制度を利用して修得した単位は、入学後に修了の要件となる単位として認めることができます。前期は2月頃、後期は8月頃に募集しています。

支援制度

長期履修制度

看護福祉学研究所／健康生活科学研究科

職業を有している等の事情により、2年（後期課程は3年）では履修が困難な場合、2年（同3年）分の授業料で3年または4年（同4年、5年または6年）かけて履修することができます。

ティーチング・アシスタント

看護福祉学研究所

学部の講義や演習等において、教育補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

フィールドワーク研修旅費助成

看護福祉学研究所

授業の一環として、実地調査、情報収集等の研究活動を行う場合において、その研修に要する旅費を助成します。

教育訓練給付制度

看護福祉学研究所／健康生活科学研究科

一定の条件（雇用保険上）を満たし修了した院生に対し、授業料等の2割（上限10万円）に相当する額をハローワークから支給する教育訓練給付制度の講座に指定されています。

※令和8年4月現在、指定を受けています。ただし、今後変更が生じる場合があります。

リサーチ・アシスタント

健康生活科学研究科

教員が行う研究プロジェクト等において、研究補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

学会参加旅費助成

健康生活科学研究科

研究領域の最新情報の把握と自らの研究成果発表を行う場合において、その学会参加に要する旅費を助成します。

入学試験概要

[募集人員]

研究科	課程	専攻	入学定員	学内推薦	一般	社会人	外国人留学生
看護福祉学研究所	修士	看護学	10名	—	10名程度	若干名	若干名
		社会福祉学	6名	—	6名程度	若干名	若干名
健康生活科学研究科	博士後期	健康生活科学	3名	—	3名		

[試験科目]

研究科	課程	募集区分	英語	専門科目	口述試験	小論文
看護福祉学研究所	修士	一般	○	○	○	
		社会人			○	○
		外国人留学生			○	○
健康生活科学研究科		博士後期	○		○	

試験日程

[第1次募集]

出願期間	令和8年7月24日(金)～7月31日(金)
試験日	令和8年8月30日(日)
合格発表	令和8年9月7日(月)

[第2次募集]

出願期間	令和8年12月18日(金)～12月25日(金)
試験日	令和9年1月31日(日)
合格発表	令和9年2月8日(月)

入試に関する
お問合せ

教育・学生支援部
教育推進課

〒910-1195
福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1
TEL 0776-61-6000(代) FAX 0776-61-6012
E-mail : kyouiku@g.fpu.ac.jp
URL https://www.fpu.ac.jp/

大学院入試に関する詳細はウェブサイトをご確認ください。

[永平寺キャンパス]

福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1

〈バス〉
京福バス福井駅西口バスターミナル大学病院線
「県立大学」下車（所要時間約40分）
〈乗用車〉
福井駅より約20分
北陸自動車道 福井北ICより約10分



公立大学法人
福井県立大学
Fukui Prefectural University



看護福祉学研究科

看護学専攻（修士課程）

各教員の研究者情報は
researchmap をご覧ください。
(教員名を入力して検索)



健康科学・ 基礎看護学 領域	基礎看護学	かさい きょうこ 笠井 恭子 研究科長/教授	自律神経や睡眠を整えるケ アの開発に関する研究	母性看護学 領域	母性看護学	いわたに くみこ 岩谷久美子 教授	母性看護や助産の安全管理 に関する研究や教育に関す る研究
		おおしま ちか 大島 千佳 教授	看護技術のエビデンス探求 (リンパ浮腫ケア、睡眠を整 えるケア)		小児看護学 領域	小児看護学	かねがす ひとみ 金粕 仁美 准教授
	内分科学 生殖科学	みずたに てつや 水谷 哲也 教授	卵巣や胎盤の機能調節メカ ニズムに関する研究	精神看護学 領域	精神看護学	かわむら 川村みどり 教授	ライフサイクルに合わせた精神 保健ケアの探求(思春期の若 者、地域で暮らす精神障害者)
	内科学 消化器内科学	おおたに まさひろ 大谷 昌弘 教授	内科・消化器疾患の臨床病 態に関する研究			はせがわ こまこ 長谷川小真子 准教授	精神科看護師のフィジカル アセスメント能力向上に関 する研究
	神経内科学 老年医学	はやし ゆういち 林 祐一 教授	認知症・神経変性疾患の臨 床病態に関する研究	地域・在宅 看護学領域	地域・在宅 看護学	ふしょう さなえ 普照 早苗 教授	訪問看護を中心とした退院 支援、家族看護、看護教育 に関する研究
	公衆衛生学 疫学	こばやし すみ たか 小林 澄貴 教授	地域・職域・社会環境等と 健康に関する調査と社会実 装に向けた研究			うめづ ちかこ 梅津千香子 准教授	在宅療養移行支援、意思決定 支援、エンドオブライフケア、 医療介護連携に関する研究
	基礎看護学	あずま ともひろ 東 知宏 准教授	感染管理、特に手指衛生に 関する研究			医療福祉学	なり た みつえ 成田 光江 准教授
成人看護学 領域	成人看護学	にほんやなぎれい こ 二本柳玲子 教授	血液透析者の減災対策に関する 構造的・慢性疾患とともに生 きる人の病い体験に関する研究	看護マナジ メント学領 域	基礎看護学	かさい きょうこ 笠井 恭子 研究科長/教授	※健康科学・基礎看護学領 域に掲載
老年看護学 領域	老年看護学	くめ まさよ 久米 真代 教授	身体疾患をもつ認知症高齢 者の看護ケアに関する研究		公衆衛生学 疫学	こばやし すみ たか 小林 澄貴 教授	※健康科学・基礎看護学領 域に掲載
		おかもと とも こ 岡本 智子 准教授	サルコペニア・フレイル、認 知症高齢者の看護ケアに関 する研究		基礎看護学	あずま ともひろ 東 知宏 准教授	※健康科学・基礎看護学領 域に掲載

※看護マネジメント学領域の指導教員は、院生の研究テーマを考慮し、看護学専攻の
教員の中から決定することができます。

社会福祉学専攻（修士課程）

ソーシャルワーク	いまい ともみ 今井 朋美 教授	若年性認知症やHIVなど制度の 狭間にある福祉ニーズにおける 援助モデルについての検討	社会福祉史	はたけなか こう 畠中 耕 教授	近代日本における地域の社 会福祉の歴史を研究
高齢者福祉	うめたに のぶやす 梅谷 進康 教授	高齢者・家族等へのソー シャルワーク、地域包括ケ アシステムに関する研究	医療人類学 ヘルス・コミュニケーション 質的研究法	みちのぶ りょうこ 道信 良子 教授	小児がん医療における子ど もの意思決定、保健・医療・ 福祉領域のエスノグラフィ
社会学・社会調査	おおく ほんもとまさ 大久保元正 教授	現代日本の企業における外国人 労働者との多様な共生の実態解 明に向けた経験的・理論的研究	権利擁護と民法総則 成年後見制度	やまぐち りえこ 山口理恵子 教授	日常生活自立支援事業や成年後 見制度を中心に判断能力が不十 分な人々の支援に関する研究
精神保健福祉 ソーシャルワーク	おかた たかし 岡田 隆志 教授	自治体における精神保健福 祉施策・活動、ソーシャルワ ーカーの現任教育に関する研究	児童・家庭福祉	よしひろ じゅんいち 吉弘 淳一 教授	子どもを取り巻く環境から の視点で子どもの理解に関 する研究
社会保障・生活保護	さかぐち まさひろ 坂口 昌宏 教授	地域共生社会を実現するた めの社会福祉法制度の構築 に向けた研究	地域福祉	ながい ゆうこ 永井 裕子 准教授	地域づくり実践における住 民の主体形成に関する研究
社会政策 非正規雇用 ジェンダー	たなか ゆみこ 田中裕美子 教授	労働市場におけるパートタイム 労働を中心とした既婚女性の就 業選択に関する研究	ソーシャルワーク	ふなき しんすけ 舟木 紳介 准教授	外国人定住支援におけるデ ジタルメディアの活用の中 研究
保健・福祉研究方法論	のりき さこん 法木 左近 特命教授	真菌症の診断に関する研究、 オートプシーイメージング (Ai)に関する研究			

健康生活科学研究科

健康生活科学専攻（博士後期課程）

各教員の研究者情報は
researchmap をご覧ください。
(教員名を入力して検索)



健康基礎科学特別研究

かさ い きょう こ
笠井 恭子

研究科長 / 教授

- ・自律神経や睡眠を整えるケアの開発に関する研究

おおしま ち か
大島 千佳

教授

- ・睡眠改善ケアのエビデンス探求
- ・睡眠環境に関する研究
- ・腸内環境に関する研究

かわむら
川村みどり

教授

- ・ライフサイクルに合わせた精神保健ケアの探求
(思春期の若者、地域で暮らす当事者)

のり き さ こん
法木 左近

特命教授

- ・白癬の病態と診断に関する研究
- ・グルコサミンの定量に関する研究
- ・横隔膜の病理学的研究

みず たに てつ や
水谷 哲也

教授

- ・胎盤の分化調節メカニズムの解明
- ・産科疾患に対する新たなバイオマーカーの開発

おおたに まさ ひろ
大谷 昌弘

教授

- ・内科・消化器疾患の臨床病態に関する研究

はやし ゆう いち
林 祐一

教授

- ・認知症・神経変性疾患の臨床病態に関する研究

は せ がわ こ ま こ
長谷川小眞子

准教授

- ・精神看護学
- ・精神科看護師のフィジカルアセスメント能力向上に関する研究

健康生活探究特別研究

うめ たに のぶ やす
梅谷 進康

教授

- ・高齢者、家族等へのソーシャルワークに関する研究
- ・地域包括ケアの課題と対策に関する社会福祉研究

おか た たか し
岡田 隆志

教授

- ・精神障害者の地域生活支援に関する研究
- ・地方自治体における精神保健福祉施策に関する研究
- ・ソーシャルワーカーの現任教育に関する研究

く め まさ よ
久米 真代

教授

- ・認知症高齢者の入院・入所による環境変化への適応を促進する看護研究
- ・身体疾患の治療中の認知症高齢者の苦痛緩和に関する看護研究

こばやし すみ たか
小林 澄貴

教授

- ・次世代の健康に影響を及ぼす妊娠期以降の環境要因と個体の遺伝的感受性に関する疫学研究
- ・労働者の健康に関する産業・職業疫学研究
- ・福井県・北陸地方の住民における健康要因を探る調査研究

さか ぐち まさ ひろ
坂口 昌宏

教授

- ・社会保障・生活保護
- ・地域共生社会を実現するための社会福祉法制度の構築に向けた研究

た なか ゆ み こ
田中裕美子

教授

- ・雇用問題をめぐる社会政策に関する研究
- ・パートタイム労働・生活時間とジェンダーに関する研究
- ・既婚女性の就業選択に関する研究

に ほん やなぎ れい こ
二本柳玲子

教授

- ・血液透析者の減災対策に関する構造的研究
- ・慢性疾患をもつ人の病い体験に関する研究

は たけ なか こう
畠中 耕

教授

- ・社会福祉史
- ・近代日本における地域の社会福祉の歴史を研究

ふ しょう さ なえ
普照 早苗

教授

- ・地域・在宅看護学
- ・訪問看護を中心とした退院支援、家族看護、看護教育に関する研究

みち のぶ りょう こ
道信 良子

教授

- ・小児がん医療における子どもの意思決定
- ・児童文学を用いた意思決定支援研究
- ・健康とウェルビーイングの医療人類学

うめ づ ち か こ
梅津千香子

准教授

- ・地域・在宅看護学
- ・在宅養移行支援、意思決定支援、エンドオブライフケア、医療介護連携に関する研究

授業担当

ふじ の ひでのり
藤野 秀則

学内兼任(経済・経営学研究科教授)

- ・健康科学特論

やまうち とよあき
山内 豊明

学外兼任(放送大学大学院教授)

- ・看護実践開発演習



お問合せ

福井県立大学 教育・学生支援部 教育推進課

TEL 0776-61-6000(代) FAX 0776-61-6012

E-mail: kyouiku@g.fpu.ac.jp URL https://www.fpu.ac.jp/